



# ～利益を生む方法～ あなたの2産牛群 泌乳量 伸び悩んでませんか？

酪農は安定的な妊娠頭数維持に加え、年間乳量の安定的持続が重要です。しかし、年間を通じて泌乳生産量を維持するには、四季変動による影響、また産歴の異なる牛群管理等、技術的

なハードルをクリアしなければなりません。

今回は、儲けの2大柱である「乳量」と「繁殖」のうち、「乳量」についておさらいします。

## 1.牛群検定における「乳量」

(図)

「へえ～じゃがのう最近の牛は、乳はよう出るようになったるんよ」「だまっとっても1万kgは出るんじゃけえ～」。搾乳牛に関して生産者の方からそんな言葉をよく耳にします。確かに、搾乳牛の年当たり平均乳量は伸びていますので、そう感じていらっしゃる方も多いかと思います。そんな方にこそ是非ご覧いただきたいのが、牧場の2産牛群の泌乳量です。

上		.3   0.79   12.7   200   2.6   55   29   15   6   2   1   682   97   7   2.4   18   20   110   3										
4 LP:93.8		():リニアマ										
200日	300日	年間	240~305日間					成績	初産分娩			
~	以上	305日	頭数	乳量	乳脂率	蛋白質率	無脂固形	補正乳量	月齢			
		成績		kg	%	%	%	kg	分娩間隔			
		1産	12	7902	3.97	3.18	8.59	10137	2産			
		2産	7	8822	4.16	3.25	8.71	9867	3産			
		3産以上	15	11079	4.07	3.10	8.46	11460	4産以上			
		平均又は合計	34	9493	4.06	3.15	8.55	10665	平均又は合計			
		年間追加	除					籍				
		除糞牛	頭数	追加	乳器障害	繁殖	肢蹄	消化	起立	疾病	低	死
				付産	(個数)	障害	損傷	不良	不良	率	能力	

成績表ですと、真ん中あたりに表示されています。

あなたの牧場では2産の補正乳量はどんな感じでしょうか？順調な牛群飼養管理が出来ていれば、初産から2産、3産と産歴が上がるにつれ、補正乳量も上がっていきませんが、(図)例のように2産目の補正乳量だけが他の産に比較して大きく落ち込んではいないでしょうか？

## 2.飼養管理、難しいのは2産目泌乳量の伸び

異なる産歴管理で特に難しいとされるのが、初産牛が初めて迎える乾乳期(前期・後期)を経ての2産目の産褥期管理、そして泌乳最盛期にかけての立ち上がりです。一般的には、乾乳期にしっかり喰えなかった牛は産んでからもダメ。逆にこの時期を上手く管理出来れば、「次の産は搾れる」という事になります。

もし、図のように2産の補正乳量が初産や3産以上の牛に比較し大きく下回っているようであれば、牛の状況(環境・個体)と検定成績表を合わせながら初産の泌乳中後期からの飼養管理を一度見直してみる必要があるかもしれません。乾物摂取量(DMI)を上げる為に使われる手法のひとつとして、乾牧草の切断給与が挙げられます。乾乳日数は60日間(前期・後期)はとりたいたところですが、一般的には初産牛が初めて迎える乾乳期は、十分なルーメンサイズが無い中、胎児の成長に伴いルーメンが圧迫され、結果DMIが低下します。

また、物理的・環境要因で言えば、気の強い牛による序列負け、盗食・占有なども現場ではよく見受けられます。更には自らの成長に必要な栄養要求量も加わる為、3産以上の経産牛に比べ飼養管理が難しいとされており、これは初産牛導入経営の方も自家産飼育経営の方でも、共通の悩みかもしれませんね。

毎日の作業で気づかなかったポイントが検定成績表から見えてきます。成績表を活用して大切な初産から2産への飼養管理を乗り切りましょう！

詳細は岡山種雄牛センター(電話 0868-57-2475)岡橋までお問い合わせください。